

織部

第32回土岐市織部の日記念事業

第13回

現代茶陶展

第32回土岐市織部の日記念事業

第13回 現代茶陶展

土岐市

土岐市

第13回

第32回土岐市織部の日記念事業

現代茶陶展

会期 令和2年5月2日(土)～5月10日(日)
会場 セラトピア土岐



主催／土岐市・土岐市教育委員会・(公財)土岐市文化振興事業団
共催／中日新聞社



土岐市長 加藤 淳司

本市における陶の歴史を遡りますと、16世紀後半、瀬戸から美濃の久尻（現：土岐市泉町久尻）に移り住んだ加藤景光の長男の景延が、この地で窯を開いたことが、大きな転換点となっています。その窯は、『元屋敷窯』（現：国指定史跡「元屋敷陶器窯跡」）と称され、安土桃山時代から江戸時代初頭にかけて茶陶の一大生産拠点となり、織部焼も誕生しました。その当時、東濃地域で作られた黄瀬戸、瀬戸黒、志野や織部焼は美濃桃山陶と呼ばれ、茶の湯の陶器として親しまれたようです。

このような歴史を踏まえ、本市では織部焼が史実に登場したといわれる慶長4年2月28日を記念して、この日を「土岐市織部の日」と制定し、毎年さまざまな記念事業を開催しております。その事業の一環として、今年も現代茶陶展を開催することとなりました。今回は全国34都道府県および海外1か国、246名の方々から318作品のご応募をいただきました。また、審査員長の榎本徹先生をはじめ、鈴木藏先生、赤沼多佳先生、伊藤嘉章先生というそうそうたる審査員の先生方によって入賞・入選作品69点が選ばれました。

厳正な審査の結果選ばれましたこれらの作品は、先人が積み重ねてきた「茶陶」という伝統の上に、各々の多種多様な技法・意匠を駆使することによってうみ出された素晴らしい作品ばかりでございます。

残念ながら、本年は、新型コロナウイルスの影響で展覧会が開催できず、作品を生で見ていただくことはできませんが、この図録でも十分に400年にわたる茶陶の歴史と、さらなる未来を目指して研鑽している現代の陶工たちの鋭い感性を感じ取っていただけることと思います。

最後に、本展開催にあたり温かいご指導、ご協力をいただきました審査員の先生方をはじめ出品者の皆様、関係各位に厚く御礼申し上げ、挨拶いたします。

凡例

- ・本書は、第32回土岐市織部の日記念事業「第13回現代茶陶展」の図録である。
- ・本書には、第13回現代茶陶展の入賞・入選作品69点及び審査員作品 1 点を掲載した。
- ・作品の法量の単位はcmで、組み物は原則として最大の個体を明記した。
- ・作品名は、原則的に作者の明示に従った。
- ・優秀賞・奨励賞・入選作品の掲載は順不同である。
- ・写真撮影はStudio TAKEの武田真和が行った。

TOKI 織部大賞



1 削ぎ目水指 [口径 12.5 胴径 16.9 高さ 19.3] 松永 慶

TOKI 織部優秀賞



2 銀彩茶盃 皓月 [口径 10.8 高さ 8.7] 高橋 朋子

TOKI 織部優秀賞



3 白虹文水指 [口径 11.8 胴径 19.5 高さ 17.2] 中村 裕

TOKI 織部優秀賞



4 銀彩器 [幅 7.9 × 8.2 高さ 5.2] 岩佐 昌昭

TOKI 織部奨励賞



5 水指「舞」 [口径 12.1 胴径 12.7 高さ 24.3] 岸田 怜

TOKI 織部奨励賞



6 引出黒 [口径 10.0 高さ 9.5] 加藤 楓也

TOKI 織部奨励賞



7 氷瓷茶碗 [口径 11.5 高さ 10.3] 黒岩 達大

TOKI 織部奨励賞



8 YUME喰うモノ [口径6.5 胴径44.0 高さ18.8] 中井 和仁

TOKI 織部奨励賞



9 灰釉花入 幾何学 [口径 4.0 胴径 12.3 高さ 23.0] 山本 二郎



10 藍彩 茶盃 [口径 9.6 高さ 10.0] 若狹 祐介



11 青備前窯変茶盃 [口径 11.3 高さ 11.4] 鈴木 篤夫



12 灰砂盃 [口径 11.2 高さ 9.6] 坪井 琢郎



13 淡雪 [口径 11.2 高さ 9.1] 藤岡 光一



14 掛け分 茶碗 [口径 13.0 高さ 9.7] 平形 牧男



15 鉄釉筒茶碗 [口径 10.0 高さ 10.4] 荻原 恒夫



16 古美濃茶盃 [口径 11.4 高さ 8.0] 木村 元



17 備前 盃 [口径 9.0 高さ 10.2] 高島 聡平



18 備前盃 [口径 11.2 高さ 9.3] 鈴木 美基



19 焼締メ棗盃 [口径 12.8 高さ 8.1] 加藤 日出



20 古井戸茶盃 [口径 15.3 高さ 7.5] 内村 慎太郎



21 萩井戸茶碗 [口径 14.0 高さ 9.0] 小野 美知代



22 瓶志野茶碗 [口径 12.5 高さ 10.0] 樋口 雅之



23 ロウ抜き志野茶碗 [口径 10.0 高さ 10.6] 澤野 恒夫



24 志野茶盃 [口径 12.7 高さ 10.5] 加藤 尊也



25 彩墨流茶盃 [口径 11.0 高さ 9.3] 瀬津 純司



26 粉引茶碗 [口径 11.0 高さ 9.7] 岩瀬 健一



27 草文茶盃 [口径 12.3 高さ 9.5] 森田 文雄



28 練込茶盃 [口径 10.8 高さ 9.8] 伊藤 雄志



29 錆輝器「茶碗」 [口径 13.9 高さ 8.0] 飯沼 耕市



30 光ノ渦 [口径 16.6 高さ 5.9] 樽田 裕史



31 H₂O [口径 11.8 高さ 10.8] 大野 万須夫



32 白磁茶碗 [口径 9.5 高さ 8.2] 高橋 奈己



33 青瓷茶碗 [口径 10.0 高さ 9.7] 河端 彩谷



34 緑彩真麗線文茶碗 [口径 12.6 高さ 8.5] 宮本 雅夫



35 碧碗 [口径 10.7 高さ 8.4] 酒井 智也



36 Dawn -夜明け- [口径 11.0 高さ 8.8] 鈴木 伊佐子



37 茶入「つちくれ」 [口径 3.2 胴径 6.0 高さ 10.2] 土平 栄一



38 振出「千ノ花」 [口径 1.7 胴径 5.5 高さ 7.0] 萩原 由希子



39 鐺振り出し [口径 1.8 胴径 5.0 高さ 9.2] 大谷 哲郎



40 紅白鮮六角水指 水影 [口径 11.0 胴径 16.3 高さ 23.8] 増原 嘉央理



41 紅黒彩縞紋の水指 [口径 14.5 胴径 24.0 高さ 18.7] 宮島 正志



42 自然練込水指 [口径 16.7 胴径 20.3 高さ 18.8] 豊福 博



43 青備前水指 [口径 11.2 胴径 18.7 高さ 20.5] 木村 英昭



44 灰釉面取水指 [口径 11.0 胴径 16.8 高さ 14.0] 松本 充央



45 彩泥象嵌水指 [口径 19.8 胴径 25.0 高さ 15.5] 羽鳥 恵子



46 鯉五郎文水指 [口径 16.7 胴径 19.2 高さ 15.0] 朝倉 潔



47 布目蝶文水指 [口径 11.8 胴径 21.5 高さ 19.0] 北川 不三男



48 白釉窯変雲水指 [口径 14.0 胴径 20.0 高さ 21.2] 岡田 裕



49 華陶筥 [口径 19.9 胴径 23.1 高さ 13.3] 織田 阿奴



50 碧玉天目 菓子鉢 [幅 21.0 × 20.8 高さ 8.3] 土渕 善垂貴



51 白磁削手蓮弁菓子器「LOTUS」 [幅 23.5 × 23.8 高さ 9.5] 丹羽 シゲユキ



52 インディゴ風絵付 綴り合わせ小向付 [幅9.7×9.8 高さ6.2] 菅原 信子



53 香炉 [口径5.6 胴径7.7 高さ10.7] 大河内 泰弘



54 彩色灰釉香炉「種」 [口径8.0 胴径13.7 高さ15.9] 仲岡 信人



55 雪纏花 [口径9.6 胴径10.4 高さ7.7] 清水 剛



56 金彩正燕支香合 [幅6.0×7.3 高さ3.4] 小山 耕一



57 煌彩殻器 [幅8.0×8.5 高さ4.6] 石井 和洋



58 宇宙へ [口径 11.0 胴径 18.0 高さ 27.5] 川澄 健司



59 小精霊器一双 [口径 4.5 胴径 14.8 高さ 20.8] 向山 文也



60 青灰釉角花入 [口径 3.0 胴径 25.5 高さ 24.1] 福盛田 眞智子



61 萌生 [口径 7.0 胴径 25.0 高さ 23.7] 稲留 清彩



62 青彩線象嵌掛花入 [口径 6.5 胴径 6.8 高さ 24.5] 田原 良蔵



63 青白磁花入 [口径 12.8 胴径 18.3 高さ 28.8] 百田 暁生



64 縹プラチナ箔巧彩花入 [口径 18.0 胴径 18.5 高さ 24.8] 佐藤 典克



65 黒花器 [口径 2.0 胴径 13.2 高さ 36.6] 的場 一憲



66 雪の花 [幅 21.5 × 21.5 高さ 1.9] 高橋 直軌



67 練込角鉢 [幅 32.5 × 33.0 高さ 9.3] 山本 真郎



68 黄瀬戸蠐螬文角鉢 [幅 20.8 × 23.2 高さ 7.5] 小野 恵子



69 からびる [幅 26 × 26.5 高さ 1.5] 安田 周司

審査員作品



志野茶碗 [口径 12.5 高さ 9.5] 鈴木 藏

審査講評



榎本 徹

岐阜県現代陶芸美術館顧問



鈴木 藏

重要無形文化財「志野」保持者



赤沼 多佳

三井記念美術館参事



伊藤 嘉章

愛知県陶磁美術館総長

榎本先生

何をおいても、申し上げなければいけないのは、応募点数の増加です。今、公募展から応募者が大幅に減っています。われわれにとっても大変残念なことです。そのような風潮の中で、この展覧会が点数を増やしているということは、特記すべきことです。この展覧会を主導された林屋晴三先生が何年かに一度ではなくて、毎年やらなければ応募者が減っていくよという、そういうアドバイスの下で、土岐市が毎年全国規模の茶陶展をやる、その努力の賜物です。応募点数の増加というのは、本当に我々審査にあたるものにとっても、嬉しい限りです。また、全国規模の茶陶展というくくりの公募展は、おそらくこちらの展覧会だけだと思います。全国規模で地域を限定しないというのが、やはり応募者の底上げにつながっていると思いますので、土岐市の英断というのが素晴らしいものだというふうに思います。おおざっぱに見て、今年は、茶碗が多いなという印象を、朝この会場に入って、第一印象で受けました。茶

陶展は本来出品数が多いのが望ましいのは茶碗ですから、茶碗の数が多いということは非常に喜ぶべきことだと思います。しかし、茶碗はなんといっても難しい。いわば、テクニックの通用しない世界です。茶碗がテクニックで上手くなったらつまらなくなりますし、歳をとって、テクニックがついてきてよくなるものではないのが茶碗です。実際にきつい言い方になりますが、数多い茶碗を拝見していて、実は出品数ほどにいい作品はなかったというのが、審査をした人間の個人的な感想です。いかに茶碗が難しいか、ということだと思います。数が多い割には、いいのがなかったなという、そういう審査員のボヤキだと思って聞き流してください。本当にこれからも毎年開催していただいて、茶陶という世界がもっと豊かになるように、ぜひ続けていただきたいと思います。茶陶に「現代」ということばがつくのがこの展覧会の特徴です。「現代茶陶展」です。ですから、とくに大賞・優秀賞は審査員が「現代」の茶陶としていいと思ったものを真剣に議論して決められていま

す。しかし、奨励賞というのは茶陶の将来を見据えて、こういう方向に育ってほしいという賞として、大賞・優秀賞の審査が終わったあとで、目を新たにして、心を切り替えて、選んでいるとお考え下さい。将来を見据えて、将来こういう形で伸びて欲しい、という思いが詰まった賞が奨励賞です。そういう意味では大賞・優秀賞の次というのではなくて、意欲的な作品が奨励賞には選ばれているというふうに、お考えいただくと、審査員が将来この作家は、こういう面を伸ばしてほしいとかそういう思いが詰まった賞であるということでご理解いただければと思います。本当に受賞者も、大賞が埼玉、優秀賞が北海道札幌、島根、千葉というふうに全国的に分布しているというのが、この展覧会の応募の幅広さを示して余りあると思います。非常にいい傾向ですが、私としては、地元の人間として、もう少し地元の作家に頑張ってもらいたい、地元の作家に大賞・優秀賞の受賞者が何人も出ることを期待しながら、私のコメントとしたいと思います。

鈴木先生

今朝 10 時から始まって、先ほど審査が終わったところですが、入賞された方は今、榎本先生からお話がありましたように、ここの紙に印刷してある方々に、賞が決まりました。

TOKI 織部大賞は削ぎを入れた、面取りの水差で織部大賞に決まりました。これはヘラで面をとられたわけですが、これは生地 hardness によってですね、つけたヘラの跡が随分変わってきます。これはこれで大賞がついたのですから最高なんでしょうけども、このヘラを使うときに抑揚を持たせ、ロクロを引いた後に時間がたてばどれだけか順に固くなっていくわけですが、それをうまい具合に捉えて、それはそれで工夫してみえるのですが、もう一つ、間合いを考えられたら、まだいい作品になるんじゃないかなという思いで見えていました。それから、織部優秀賞は今、榎本

先生が仰ったように、3 人の方が受賞されておめでとうございます。それから、奨励賞は次に何が出てくるかというような、期待感を持たせるような作品が奨励賞になっておりますけれども、そういう目で選ばれて、初めてここに出されて、奨励賞を頂かれた方もございます。これからが非常に楽しみなことだと思います。

榎本先生が仰るように、続けることに非常に意義があるわけでございますから、これからも頑張って一層の向上をお願いいたします。

赤沼先生

私がこの審査に参加したのは二回目ですが、初回から感じたことはこの茶陶展が全国を対象にしている面白さです。全国からの出品であるために、地域性が明らかな作品があり、あるいは作陶地が全く想定できない独創的な作品もあるなど、かなり多様で、審査側におります者にとっては楽しくもあり、また苦しくもあります。

茶陶を造るということは多くのことが求められます。己の主張を表現しなければならないことはいまでもありませんが、いつも言われるように茶陶は茶の湯の場で使われる器でもあります。水指ひとつで茶の湯は成り立ちません。茶碗も同様です。すなわち出品される作品は、茶を点てる場、そして点てるに必要な他の器と共存することになります。そこに大きな課題があるのではないのでしょうか。

今年は茶碗が多かったようです。茶陶のなかで水指や花入、香合、あるいは懐石の器などは造形的に自由な創意が発揮できますが、茶碗の場合はなかなか難しいように思われます。しかし先回に比べて今年は自由な発想の茶碗が見られました。一方、新しい茶碗を造ろうとするあまり、茶の湯の茶碗の限界が見えなくなった作品もあります。

伝統的な茶の湯に固執するばかりではなく、作者の卓越した技法と創意が発揮された現代の茶陶を来年もまた期待いたします。

伊藤先生

私自身が今回審査会場に入って思ったのは、随分挑戦している作品、あるいは茶陶という今までの枠からはみ出るような作品が多いのかなということでした。一方で、入選が決まり、賞が決まったものではすごく飛び抜けたもの、変わったものが多いかという、必ずしもそうではなかったという印象があります。挑戦的にいろんな形をやるっていうのはすごく大事なことだと思いますけれど、そうした挑戦と茶の湯の焼き物というものが絡み合ったところで、素晴らしいものになると思います。ですから、今回挑戦的な作品を出品していただきながら入らなかったという方には、現代の焼き物であり、茶の湯の焼き物である、この部分でもう一つ越えていただくと、きっと面白いものができると思うんですね。

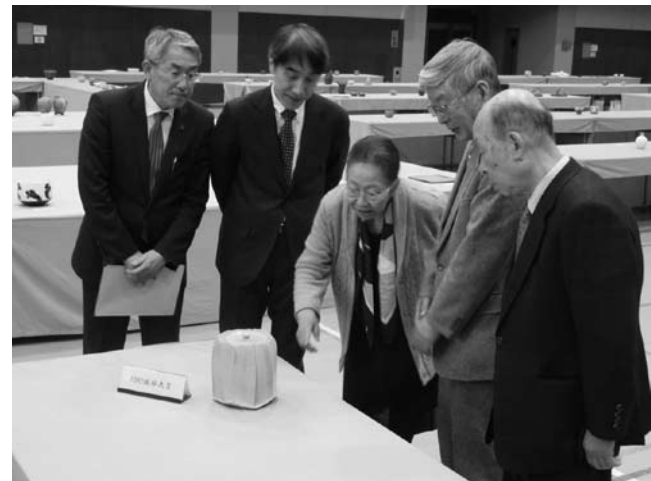
今回大賞をとられた松永さんはもう何度もこの展覧会に出品されていらっしゃって、削ぎという削るという技法でチャレンジしていらっしゃった方です。その方の作品が水指として今回出てきてそれが大賞になった。そういう意味で、なるほど何年も挑んでこられた技法で遂にこの賞をとられたのだという想いがあります。

また、優秀賞をお取りになった中村さん、岩佐さん、高橋朋子さん、この三人の方ですね、中村さんと岩佐さんはこれより前に奨励賞をお取りになった方であり、高橋さんの場合は前にも優秀賞を一度お取りになりました。それぞれに素晴らしいのですが、特に奨励賞だった方が今回優秀賞をお取りなられたというのは、作品を出しながらその中で成長していかれるところに我々が立ち合えてるということで、嬉しい出会いと言えます。

また、奨励賞をお取りになりました中井さん、岸田さん、加藤さん、山本さん、黒岩さん、この中で、水指で受賞の岸田さんは今回の入賞の中で一番若くて35歳。たぶん私が思うところでは、この展覧会に初めて入選されたと思うのですが、ご自身の作る水指とはというものをブーンと出

してらっしゃった。これが先ほど榎本先生が仰った奨励賞の意味合いで、これを更に茶の湯の焼き物として世界を作っていかれたとしたら、次に会うときにどういう風に見えるのかなという、そういう意味の期待がある作品です。また、中井さんあるいは山本二郎さんの花入なども、山本さんは前同じような表現の茶碗があったんですけども、今回はこのような非常に斬新な、花入という形になってきてますし、それぞれが今までに自分はこれだよっていうのに縛られずに、新しいチャレンジをされてるっていうのが面白いと思います。それでいきますと、奨励賞の黒岩さんはかつて優秀賞をとられていますが、その時から作風を、釉薬の表現をガラリと変えてらっしゃって、新たなものへ挑戦されているのが見えてきている、そして次のチャレンジが期待されるってことでの奨励賞だと思います。

それぞれの賞の中に、それぞれの我々審査員自身も楽しみながら、見させていただき、そして次への期待を込めながら、賞というのを決めさせていただきました。これで今回というのを見ていただくことでありますし、また、次回のお品でどのようなものが出てくるのか期待できるんじゃないかという、そういうような印象を抱きました。



入賞・入選作家名簿

No.	賞 名	作 家 名	住 所
1	TOKI織部大賞	松永 慶	埼玉県鴻巣市
2	TOKI織部優秀賞	高橋 朋子	千葉県八街市
3	TOKI織部優秀賞	中村 裕	北海道札幌市
4	TOKI織部優秀賞	岩佐 昌昭	島根県出雲市
5	TOKI織部奨励賞	岸田 怜	長野県長野市
6	TOKI織部奨励賞	加藤 摺也	岐阜県多治見市
7	TOKI織部奨励賞	黒岩 達大	岐阜県可児市
8	TOKI織部奨励賞	中井 和仁	滋賀県甲賀市
9	TOKI織部奨励賞	山本 二郎	京都府宇治市
10	入選	若狭 祐介	広島県江田島市
11	入選	鈴木 篤夫	岡山県和気郡和気町
12	入選	坪井 琢郎	岐阜県岐阜市
13	入選	藤岡 光一	兵庫県姫路市
14	入選	平形 牧男	長野県長野市
15	入選	荻原 恒夫	長野県須坂市
16	入選	木村 元	岐阜県土岐市
17	入選	高島 聡平	岡山県備前市
18	入選	鈴木 美基	岡山県備前市
19	入選	加藤 日出	岐阜県多治見市

No.	賞 名	作 家 名	住 所
20	入選	内村 慎太郎	福岡県糸島市
21	入選	小野 美知代	茨城県牛久市
22	入選	樋口 雅之	岐阜県多治見市
23	入選	澤野 恒夫	岐阜県土岐市
24	入選	加藤 尊也	岐阜県多治見市
25	入選	瀬津 純司	京都府京都市
26	入選	岩瀬 健一	東京都八王子市
27	入選	森田 文雄	埼玉県加須市
28	入選	伊藤 雄志	愛知県常滑市
29	入選	飯沼 耕市	茨城県笠間市
30	入選	樽田 裕史	愛知県瀬戸市
31	入選	大野 万須夫	長野県駒ヶ根市
32	入選	高橋 奈己	東京都練馬区
33	入選	河端 彩谷	岐阜県瑞浪市
34	入選	宮本 雅夫	石川県小松市
35	入選	酒井 智也	愛知県瀬戸市
36	入選	鈴木 伊佐子	カナダ
37	入選	土平 栄一	愛知県常滑市
38	入選	萩原 由希子	兵庫県姫路市

No.	賞 名	作 家 名	住 所
39	入選	大谷 哲郎	愛知県豊田市
40	入選	増原 嘉央理	北海道札幌市
41	入選	宮島 正志	東京都北区
42	入選	豊福 博	岡山県和気郡和気町
43	入選	木村 英昭	岡山県備前市
44	入選	松本 充央	東京都世田谷区
45	入選	羽鳥 恵子	神奈川県横浜市
46	入選	朝倉 潔	千葉県八街市
47	入選	北川 不三男	愛知県東海市
48	入選	岡田 裕	山口県萩市
49	入選	織田 阿奴	滋賀県甲賀市
50	入選	土淵 善亜貴	京都府京都市
51	入選	丹羽 シゲユキ	北海道札幌市
52	入選	菅原 信子	愛知県豊田市
53	入選	大河内 泰弘	千葉県勝浦市
54	入選	仲岡 信人	兵庫県丹波篠山市
55	入選	清水 剛	兵庫県丹波篠山市
56	入選	小山 耕一	東京都台東区
57	入選	石井 和洋	広島県福山市

No.	賞 名	作 家 名	住 所
58	入選	川澄 健司	奈良県香芝市
59	入選	向山 文也	栃木県那須烏山市
60	入選	福盛田 眞智子	北海道江別市
61	入選	稲留 清彩	広島県三原市
62	入選	田原 良蔵	東京都日野市
63	入選	百田 暁生	佐賀県西松浦郡有田町
64	入選	佐藤 典克	神奈川県相模原市
65	入選	的場 一憲	愛知県豊田市
66	入選	高橋 直軌	北海道札幌市
67	入選	山本 真郎	神奈川県南足柄市
68	入選	小野 恵子	岡山県岡山市
69	入選	安田 周司	岐阜県瑞浪市

第13回現代茶陶展出品状況

1	応募点数	318点（前回310点）						
2	応募実人数	246人（前回243人）						
3	男女別人数	男性 193人 女性 53人						
4	年代別人数	最年少 24歳（平成7年生） 最高齢 86歳（昭和8年生）						
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合 計
男	4	26	54	39	39	25	6	193
女	3	8	14	12	7	8	1	53
計	7	34	68	51	46	33	7	246

5 都道府県別人数

北海道	9	岩手県	1	宮城県	1	山形県	1	茨城県	6
栃木県	5	群馬県	1	埼玉県	6	千葉県	11	東京都	15
神奈川県	11	新潟県	1	石川県	3	山梨県	1	長野県	7
岐阜県	50	静岡県	5	愛知県	37	三重県	3	滋賀県	5
京都府	6	大阪府	5	兵庫県	12	奈良県	3	和歌山県	2
島根県	3	岡山県	15	広島県	5	山口県	5	愛媛県	3
福岡県	2	佐賀県	3	鹿児島県	1	沖縄県	1		
海外（カナダ）			1						

土岐市	15	多治見市	19	瑞浪市	4
-----	----	------	----	-----	---

6 入賞・入選数

TOKI織部大賞 1 点、TOKI織部優秀賞 3 点、TOKI織部奨励賞 5 点、入選60点

第32回土岐市織部の日記念事業
第13回現代茶陶展図録

編 集 （公財）土岐市文化振興事業団
岐阜県土岐市泉町久尻1263
TEL 0572-55-1245
発行日 令和 2 年3月31日
発行者 土岐市
岐阜県土岐市土岐津町土岐口2101
印 刷 丸理印刷株式会社
岐阜県瑞浪市学園台5丁目1-1
TEL 0572-68-7111